はじめに

APAC 地域はセグメンテーションの成熟において世界をリードしているが、適用範囲の不足や実施面の課題により実際の効果が伸び悩んでいる

アジア太平洋（APAC）地域では、マイクロセグメンテーションの成熟が他のどの地域よりも速いスピードで進んでおり、その水準も高くなっています。すでに APAC 地域の企業の半数近くがマイクロセグメンテーションを導入しており、世界全体の割合である 3 分の 1 と比べても、導入や意欲の面で明らかに先行しています。このように成熟が急速に進む背景としては、APAC 地域がゼロトラストの原則を強く遵守しており、集約型の管理体制への移行が明確に進んでいることが挙げられます。しかし、こうした動きがあるにもかかわらず、Akamai のデータによると、成熟度の高さと実際の効果の間に大きな不均衡が生じています。

封じ込めの成果は、想定されていた水準には達していません。他の地域の企業では、セグメンテーションの導入後、ランサムウェアの封じ込めの効果が目に見えて向上したという報告が出ていますが、APAC 地域の企業では、効果の向上がほとんど見られません。これは導入の広がりとは対照的に、導入の深さ、そして適用範囲や実施範囲の広がりがまだ十分ではないことを示唆しています。

とはいえ、APAC 地域で導入が進んでいることは疑いようがありません。APAC 地域では、セグメンテーションを幅広く取り入れ、管理用ツールやコンプライアンスツールへの投資を継続しているため、他の地域ではほとんど見られない強固な基盤が構築されています。今後の課題は、実施面の課題を解消できるよう、セグメンテーションをすべての環境で統一的に拡張し、成熟度の高さを実際の封じ込めの効果につなげていくことにあります。

ポイント：

マイクロセグメンテーションに関して世界をリードしている *APAC* 地域において、今後の課題は制度の実施にあります。成熟度の高さを基に回復力の向上を実現できるよう、すべての環境でリアルタイムに実施していくことが重要です。